

表 生息環境・希少カテゴリー別京都府レッドデータブック種()< >は2012年改訂案)

	海域・海岸域・離島	河川・池沼・ヨシ原	水田・畑地・草地 ※巨椋干拓地など	山地・山林 ★芦生・鞍馬など	他(都市緑地等)
絶滅寸前種 極少+減少 8種→8種	オオハクチョウW カンムリウミスズメB カラスバトB		ウズラW (獺禁)	ミゾゴイB★ イヌワシ(B)? コノハズクB★ ブッポウソウB 指	
絶滅危惧種 極少:極 または 少数+減少:減 49種→48種	ヒメクロウミツバメB極 指 クロサギB 極 ミサゴB 極 オジロワシ W 極 ハヤブサB 極 〈クロガモ W 極〉	ヨシゴイB 減 チュウヒW 減 クイナW 減 シロチドリB 減 ソリハシシギT極 ホウロクシギT極 コアジサシB? 極 指 ヤマセミB 減	ハイイロチュウヒW※ 極 コチョウゲンボウW※ 極 ヒクイナB I 減 タマシギB I 減 指 トウネンT I 減 ヒバリシギT※ I 減 オジロトウネン W 極 ツルシギT 極 コアオアシシギT※ 極 オグロシギT 極 オオソリハシシギT 極?迷? ハリオシギT 極 ツバメチドリT I 減 コミミズクW※ 減 (チョウゲンボウB 極) (コウノトリ B 極)	ハチクマB 減 オオタカB 極 指 ツミB 極 サシバB 減 クマタカB 減 ヤマシギW 極(獺禁) アオシギW 極 (マミジロB 極) トラフズクW 極 オオコノハズクB 極 ヨタカB 減 アカショウビンB★極 オオアカゲラB★ 極 サンショウクイB 減 コサメビタキB 減 クロジB★ 極	ヒメアマツバメB 極 コムクドリ T 減
準絶滅危惧種 少数:少 または 減少:減 45種 →50種	オオハムW 少 コハクチョウW 少 シノリガモ W 少 〈ヒメウW 少〉 〈ホオジロガモW 少〉 〈ミコアイサW 少〉	カイツブリB 減 (トモエガモW 少) オオバン W 少 イカルチドリB少 キアシシギT 減 イソシギB 少 〈カワアイサW 少〉 (ツリスガラW 少) (ハマシギW 減)	チュウサギB 少 シマアジ T 少 ノスリW 減 チゴハヤブサW 少 ムナグロT I 減 ウズラシギT※ 減 アオアシシギT 少 クサシギ W 少 チュウシャクシギT※ I 減 チュウジシギT※ 少 オオジシギT※ I 少 セイタカシギT 少 コクマルガラスW※ 少 〈タゲリW 少〉	ハイタカW 少 ヤマドリB 減 カッコウB 少 ツツドリB 減 アオバズクB 減 フクロウB 減 アリスイ W 少 アカゲラB 減 トラツグミB 減 (オシドリB 少) クロツグミB★ 少 ムギマキ T 少 サンコウチョウB 少 ゴジュウカラB★ 少 ハギマシコW 少 イスカ W 少? (アオバトB 少) (ジュウイチB 少) (コルリB★ 少) (キバシリB★ 少)	ササゴイB 少
要注目種 (営巣地少数) 2種→2種	オオミズナギドリB ウミネコB				
計104→108種	13種→17種	14種→17種	30種→31種	43種→40種	4種→3種

改訂案の種は< >か()で囲んでいる。< >は2002年時点で対象種とすべき種だったが検討していなかった種。()は、季節移動型の変更、個体数レベルの変更などがあった種。

迷行種と扱うことで削除する種(オオマシコW)(コイカルW)(ホシガラスT)(←毎年どこに出現と言えないため)

準絶滅種から削除する種(イワツバメB ←少でなく非少のため)(タカブシギT I 減でなく非減であるため)

?は検討の余地がある情報

京都府確認種 から 多数種、迷行種(定義あり)、情報不足種を除いた種を判定対象種とする。

対象の個体群 B: 府内繁殖個体群 (B): 繁殖期行動圏の一部 W: 越冬個体群 T: 通過個体群

水田・畑地・草地における※印: 規模の大きい農耕地・府内では巨椋干拓地などに限定して出現する種。

山地・山林における★印: 芦生・鞍馬・八丁平・久多・比叡山・愛宕山・大江山・青葉山など(自然度が高く規模の大きい山林)に限定して出現する種。

I: 岩倉に1970年代(まだ水田が広がっていた)に確認されたものの、近年姿を消した種(高田, 2000)。

指: 指定希少野生生物に指定の5種

獺禁: 狩猟鳥だったが禁止対応がとられた種

個体数や分布のパターン 1)極少、2)少、3)少なくはない 減少のパターン 1)減少、2)減少はしていない

希少性判定 絶滅寸前種(極少かつ減少)、絶滅危惧種(極少ないが減少はしていない、か、少なくとも減少)、準絶滅危惧種(少ないが減少していない、か、少なくとも減少している)